

報告書

A01-3 骨格筋の発達・維持・萎縮における負荷依存性の分子基盤の理解

研究代表者/派遣者： 瀬原 淳子（京都大学 ウイルス・再生医科学研究所・教授）

所 属： 京都大学 ウイルス・再生医科学研究所 再生増殖制御学分野

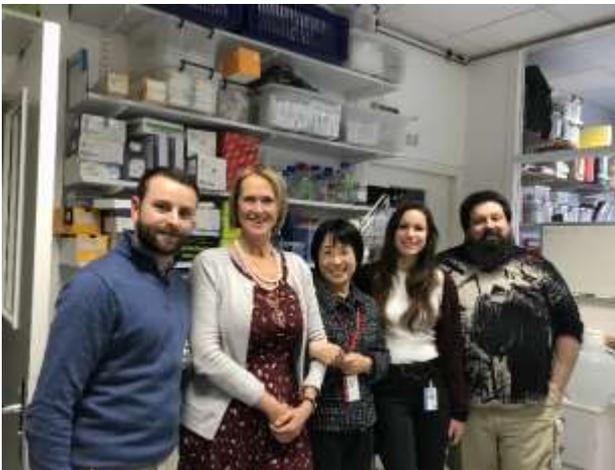
派遣期間： 2020年1月21日～1月31日

派遣先： Institut Pasteur, France

瀬原グループではゼブラフィッシュの宇宙滞在に伴う遺伝子変化に焦点を当てて研究してきた。その中で代謝や転写後制御に関わる遺伝子群に大きな変化があることを知り、それらを様々な観点から検討してきた。その一つとして、フランスのパスツール研究所 Miria Ricchetti 博士のグループとの共同研究を進めており、今回もその研究打ち合わせを主な目的としてパリを訪れた。

パスツール研究所には、筋再生や老化に関する優れたグループとして、骨格筋幹細胞研究のメッカの一つである Shahragim Tajbakhsh 博士の率いるグループ、同じく骨格筋幹細胞研究においては優れた研究実績を有する Didier Montarras 博士のグループ、DNA 複製・修復機構の観点から老化研究、早老症の研究を行っている Miria Ricchetti 博士のグループ、筋幹細胞研究において長年にわたりリーダーシップをとってきた Margaret Buckingham 博士などがある。今回はセミナーを行なった後、毎日違うグループと、密なディスカッションを行なった。論文をまとめるにあたっては、さらに別のグループとのディスカッションも必要であったことから、パスツール研究所以外の2研究機関も訪れた。残念ながら地下鉄などの交通機関のストの影響で、かなり歩く羽目にもあったが、大変充実した毎日であった。

共同研究は今しばらく続けることになるが、新学術の支援により派遣されるのは今回が最終回になるので、研究所や訪問先での記念写真などを載せておきたい。研究室の若手研究者だけでなく、私も何回も海外派遣していただいたおかげで、研究者として彼らと互いに信頼し合える関係を築いたり強めたりできたことは本当に大きな収穫であった。この場をお借りしてこのような機会を与えてくださった古川聡領域代表と総括班の方々に感謝の意を表したい。



Miria Ricchetti 博士のグループの方々と。いい雰囲気の研究室です。



Shahragim Tajbakhsh 博士と。大きな研究グループです。



こだわりのサイエンティスト、
Didier Montarras 博士と。



Drs. Richard and Margaret Buckingham



パスツール研究所の前で